

2007年10月期 中間業績について

1. 業績報告

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加に加え、雇用情勢の好転により個人消費も持ち直すなど、景気は回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは顧客の期待に応えられるより良い製品作りを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、また生産効率の向上及び原価低減への取り組みなど、グループ一丸となって業績向上に努めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結売上高は 7,663 百万円(前年同期比 0.8%増)となりました。また利益面では、経常利益 720 百万円(前年同期比 18.0%減)、中間純利益は 554 百万円(前年同期比 0.5%増)となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 猟銃事業

主力の米国市場は、原油高によるガソリン価格の再上昇などの影響により、ハンティングの抑制やシューティングの出足が鈍化するなど厳しい状況が続き、主力製品である上下二連銃と付加価値の高いボルトアクションライフル銃が減少し、販売数量は前年同期を下回りました。以上の結果、売上高は 3,164 百万円(前年同期比 10.1%減)、営業利益は 90 百万円(前年同期比 71.4%減)となりました。

② 工作機械事業

自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が引き続き好調に推移しており、機械部門は前年同期に比べ、付加価値の高いガンドリルマシンの販売台数が 55.2%増と好調に推移したことから増収・増益となりました。ツール部門及び加工部門は前年同期に比べ若干の減収・減益となりました。その結果、売上高は 2,122 百万円(前年同期比 12.3%増)、営業利益は 534 百万円(前年同期比 13.6%増)となりました。

③ 自動車関連事業

自動車業界は引き続き順調に推移しており、主力の純木製ステアリングハンドル及びシフトノブの販売数量は、搭載車種への装着率が増加したこと等により、前年同期を上回りました。その結果、売上高は 2,401 百万円(前年同期比 9.8%増)、営業利益は 11 百万円(前年同期比 18.7%減)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、売上高は 18 百万円、営業損失は 1 百万円となりました。

2. 通期の見通し

下半期の見通しにつきましては、原油価格の高騰による原材料の値上げや金利の上昇など懸念材料があるものの、国内景気は底堅く回復基調で推移するものと思われます。

猟銃事業につきましては、当初計画から比べ下半期は追加受注や新製品の量産化がスタートする等、販売数量は増加する見込みであります。しかしながら、新製品に伴う減価償却費や新工場への移設費用等、一過性の費用が発生する見込みであることから、通期の営業利益は前期と比べ 50%の減少となる見込みであります。また工作機械事業及び自動車関連事業の下半期は、上半期と同様の伸びはないものの、通期見通しは予定どおり好調に推移する見込みであります。

このような環境のもと、当社はグループ企業の純粋持株会社として、グループ企業全体の成長と収益性向上を目指し、各々の事業分野で市場動向を踏まえた事業戦略を立案し、機動的な対応により競争力を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高 15,500 百万円(前期比 2.9%増)、経常利益 1,220 百万円(前期比 12.8%減)、当期純利益 870 百万円(前期比 0.5%減)を見込んでおります。